研究部だより

令和６年
１月３０日(火)発行
第７号
文責：池田

研究部だより第７号は、令和５年１１月１５日（水）の研修日での校長先生、教頭先生の講評について掲載しました。日々の授業つくり等で役立てる情報があれば幸いです。 また、令和６年１月１２日（金）の外部講師講演会の内容についても掲載しておりますので御覧ください。

令和５年１１月１５日（水）小学部研修　星野校長先生講評

小学部は義務教育前段階である。低、中、高と進むにつれて学習は未分化なものから系統性のあるものに変化していく。なぜ学校で児童を集めて教育をするかというと、人と人との関係性を取り持つこと、コミュニケーションを取ること、やりとりをいろいろな人とすることで多様性を受け入れることを学ばせることが目的となっている。学力偏重ではなく、心や体をバランスよく育てていきたい。キーワードは学び合い。子ども同士が状況を見ながら自分たちで考えて動き、大人が仲介役として支援指導をする。ICT を使用することで、児童の考えをより引き出すことができる可能性がある。

８月に自閉症の特性を話したが、興味関心が広がりにくい子どもたちにどうアプローチするかを考えてほしい。ICT を使用することでより学びやすい環境を準備することができる。（忘れたときに思い出す、自分ではなくタブレット端末に記録して利用するなど）タブレット端末の操作を教えるのではなく、どんな風に便利なのかを体験し、児童が ICT を使いたい、将来自分で「使おう」と思う道具になることがよいと思う。視線入力装置やスイッチなどで仕事や趣味を実現している肢体不自由の方も増えてきている。知的のお子さんでも応用できることがその中にあると思う。そのベースとして情報リテラシーを小学部段階で教えることが必要である。ルールを作り、その中で使うと便利であること、大切に使おうとする気持ちを養っていけるとよい。

小学生であっても指先１本でタブレットを操作して、考えを伝えられることは分かってきた。本校では ICT を最大限効果的に使うために、今ノウハウを蓄積している。こういった実践を校内で共有できるとよい。ユニバーサルデザインの授業が標準となるような、全体と個別をきちんと整理して教育課程を進めていけるような、そんな環境ができるとよいと思う。そこには、何のために何をどのように学ぶのか、どのようにステップアップしていくことが明記されていることが必要。教務でもやっているが、全体計画を確認して「今何を学ばなければならないか」を意識して指導に当たってほしい。

世の中の情報が真実かどうかを判断できるのは人間でしかない。情報リテラシーを通して、その力を大人も養っていかなければならない。ChatGPT であっても確率の高いものを選択しているだけで吟味をしているわけではないので、人間として情報を吟味する力を培っていく必要がある。今後 AI はどんどん進化していく。経験から選び、よりよい物を選択していくために、先生方がいろいろなことに疑問を持つことが必要。我々の気づきを確かめながら、自分の指導力をアップするために学んでいきたいと思う。

令和５年１１月１５日（水）中学部研修　和田教頭先生講評

　授業は、目標があって行う。目標達成のためのツールとして、ICT を活用する。

　参考（特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編）：特別支援学校においては，児童生徒の学習を効果的に進めるため，児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じてコンピュータ等の教材・教具を創意工夫する。

　将来を見通し、必要に応じて長期的な視点で ICT 機器を有効に使うことができるようにする視点をもって指導することは大切である。

　参考（個別の教育支援計画の作成・活用に係るＱ＆Ａ）障がいのある児童生徒等一人一人に必要とされる教育的ニーズを正確に把握し、長期的な視点で幼児期から学校卒業後までを通じて、一貫した的確な支援を行うことを目的に作成する計画です。

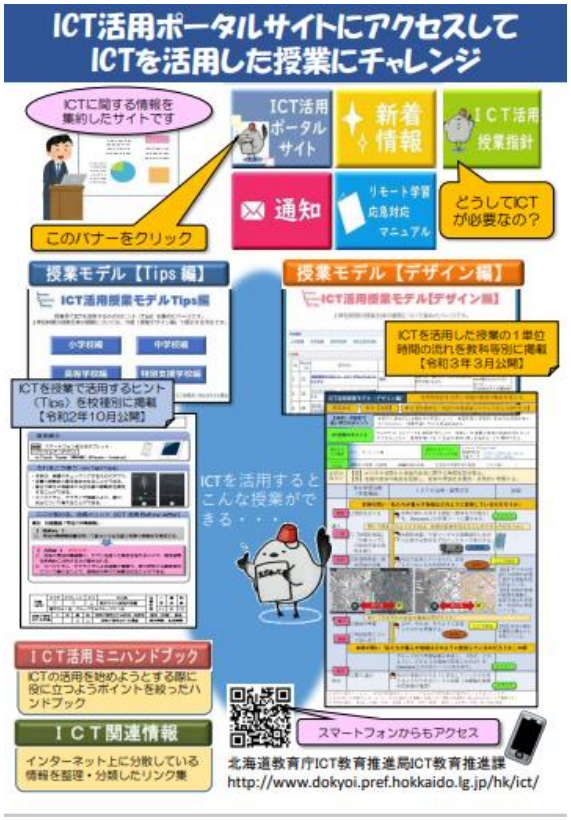
　児童の実態に応じて、どのような技能が、本人の自立と社会参加に寄与するのか考え、個別の教育支援計画、指導計画に記載するなどし、計画的に学習できるとよい。

←ICT 活用ポータルサイト－北海道教育庁 ICT 教育推進局 ICT 教育推進課
https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ict/ict-portalsite.html

ＩＣＴ活用ポータルサイト

「ICT活用ポータルサイト」は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等の先生方や保護者の皆様などへ、ICTを活用した教育についての情報を提供するたのウェブページです。

▲中学部の様子



ICT 活用ポータルサイトにアクセスして ICT を活用した授業にチャレンジ→
https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ict/ict/

令和５年１１月１５日（水）高等部研修　三浦教頭先生講評

授業を参観して、授業のユニバーサルデザイン化についてお伝えしたいと考えました。特別支援学校では、標準装備されなければならないと感じています。特に高等部では様々な大きさの集団で授業をする際のポイントになります。今回感じたことや、良かった部分について、ICTと関連ないこともありますが、３点お伝えします。

１点目は、授業の流れやゴールを生徒と共有できていますか、伝わっていますか、ということです。「新聞を作りましょう。今日は文章のメモを入力して、写真をネットで探して貼ります。次回は、本番のファイル入力をします。」と言葉だけで伝えると、すぐに「先生、次は何をしますか？」と呼び出しが掛かります。いつでも見返せるように手順を提示し、自分で解決できる手段を用意します。文字を理解することに困難さがあれば、実物を手本に示すと分かりやすくなります。また、「新聞を作りましょう！」と言われて、どのような新聞を作るのかイメージできるでしょうか。「紹介する記事を書きましょう」という言葉だけではなく、組み立て方を数パターン用意して例を提示すれば、ゴールを共有でき、終わりが見えて安心する生徒もいるでしょう。ゴールが見えていることで一人一人が工夫を考えることにもつながるかもしれません。

２点目は、ポイントの焦点化がなされ、それが生徒に伝わるようになっていますか。どのような新聞を目指していたのか、誰に向けた新聞なのか、それによって何を意識すれば良いか。これらをしぼって生徒たちに伝えることで、学習の狙いがよりはっきりします。新聞を作って廊下に貼り、できて良かったね、では目的意識をもちにくいです。どのような新聞を目指すのか、いつでもねらいに戻れる工夫も必要です。パワーポイントで最初に提示しても、スライドを進めていくと見えなくなってしまいます。板書などの工夫が必要になってきます。

３点目は、理解を深めるための手立てはなされていますか。外山先生の授業では、理解につなげるための動作化・作業化がなされていました。言葉で示すだけが正解ではない、評価の見取り方ではない、ということがよく分かりました。体を使う、感覚を使うというのも活動内容の工夫として理解を深めることにつながります。ICTの良さがここで発揮されます。機器を使うことで、様々な物を見せることが簡単になります。地震が起きたときの動きについて、何度も繰り返し、確認することができます。個人のタブレット端末を使うことができれば、自分で操作して繰り返しの学習ができます。

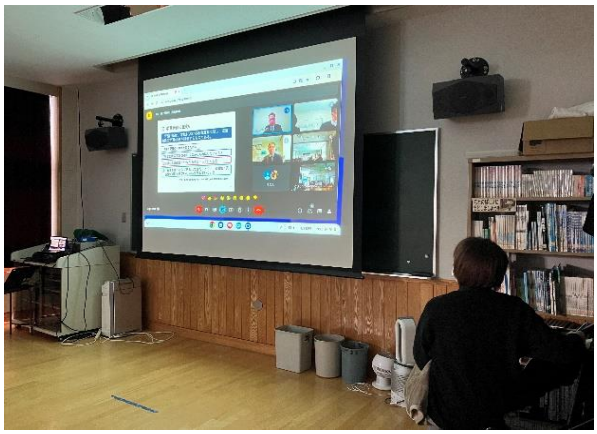
さて、ここまでやった上で、個々の生徒に対してさらに必要であれば、スイッチなどの機器を使って操作したり、近くに個別の手順表を置いたりするような支援がでてきます。

まずは、シンプルに基本の授業をしっかりと作ることで、個々への支援が最小限になります。卒後の生活を考えたときも、これらの内容が引き継がれれば、生活しやすくなると思います。前期後期にわたっての授業研究、大変お疲れ様でした。

令和６年１月１２日（金）　外部講師講演会
北海道立特別支援教育センター　教育課主任研究員（自閉症・情緒障がい教育室長）日小田 泰昭 様

今回の外部講師講演会は、北海道立特別支援教育センターの日小田様に、リモートでご講演いただきました。最初に7月24日の校内研修の振り返りをしていただき、次に学習評価について説明していただきました。中学部の美術科の授業について、特別支援学校解学習指導要領解説を基に解説していただき、「生徒の姿の具体は、どのような姿でしょうか？」という問いに対して、個人で3分間考えた後に意見交流を5分間設けるミニ演習もあり、会場では活発な意見交流がされていました。次に評価規準では、評価の観点及びその趣旨の段階における違いや評価規準と一人一人の学習状況の評価について詳しく説明していただきました。最後に学習評価を生かした授業づくりでは、「創作ダンス」の単元計画の例示を基に、評価の計画を立てることの重要性を説明していただきました。日小田様は講演会終了後も時間を許す限り質問を受け付け丁寧に回答してくださり、学びの多い研修となりました。

▼小学部

▼中学部

▼高等部